

農薬を使用しない

斑点米カメムシ類被害の削減技術



7月以降の
定期的な畦畔草刈りで
カメムシの数を減らします



斑点米カメムシ類は
畦畔のイネ科雑草の
穂が大好きです

畦畔沿いを
別収穫して
斑点米を
減らします



畦畔に近い程、
斑点米が多い
です



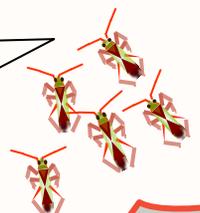
○ 水田畦畔の草刈り時期と回数は・・・

出穂3週間前、出穂期、出穂3週間後の3回です

○ 別収穫の範囲は・・・

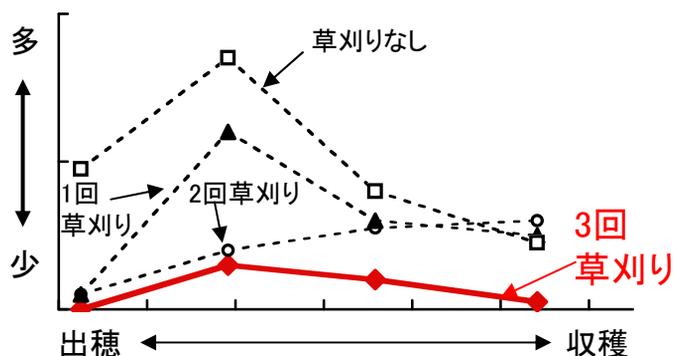
畦畔際から5～10条分です

まいった
なあ。。



【畦畔草刈りによるカメムシ類と斑点米の低減効果】

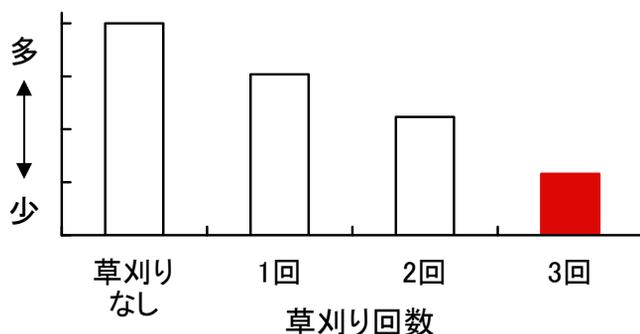
〈水田のカメムシ数〉



3回草刈り

出穂3週間前、出穂期、出穂3週間後
 2回草刈り 出穂3週間前、出穂期
 1回草刈り 出穂3週間前
 草刈りなし 7月～収穫期まで草刈りなし

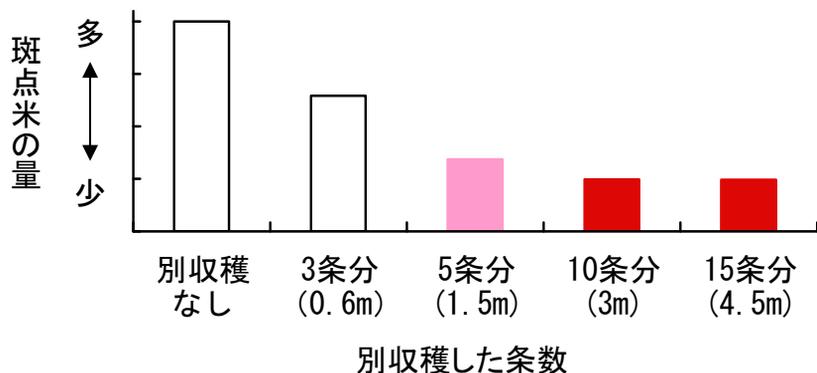
〈斑点米混入率〉



畦畔草刈りを3回すると……

- ①水田のカメムシ数が抑制される
(出穂～収穫期まで)
- ②斑点米が6～8割減る※
(※草刈りなしの場合と比較)

【畦畔沿い別収穫による斑点米の低減効果】



畦畔際から

5～10条分を別収穫すると……
 斑点米が6～7割減る※

(※別収穫なしの場合と比較)

注意事項

- ★ この技術は、短辺20～30mのほ場での試験結果をもとに検討しました。
- ★ イネの出穂後、穂をつけたイネ科雑草を刈り払うと、穂で増殖したカメムシ類を水田へ追い込む結果となります。したがって、イネの出穂期以降の草刈りは、再生したイネ科雑草が再び出穂する前(前回の草刈りから3週間程度)に行ってください。
- ★ 水田内の穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第取り除いて下さい。
- ★ 穂揃い期～乳熟初期に、カメムシ類防除を目的に農薬散布を行うほ場では、畦畔の草刈りを出穂3週間前と出穂期の2回行うと、農薬の効果がより安定します。

(問い合わせ先)

鳥取県農林総合研究所 農業試験場 環境研究室
 TEL : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず
 農業試験場の許可を受けて下さい